



鹿児島信用金庫



理事長
市川 博海

ごあいさつ

皆さまには、平素より鹿児島信用金庫に格別のお引き立てをいただき、誠にありがとうございます。
日頃のご愛顧とご支援を心から感謝申し上げます。

ここに第103期業務概況と決算をとりまとめた「2025 かしんディスクロージャー」を作成いたしました。ご高覧賜り、当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

海外の金融経済環境は、第二次トランプ政権誕生後、各種政策が与える影響によるインフレの再燃、景気減速懸念による不透明感の高まりから市場は乱高下する場面が多くなり、世界経済に大きな影響を及ぼす米国の政策に注目が集まっています。

一方、国内においては、日本銀行がマイナス金利解除により17年ぶりに政策金利を引き上げ、その後も追加利上げを実施するなど金利のある世界へと大きく変わってきました。さらに、地域経済においては原材料高騰による価格転嫁が思うように進まない中、賃金上昇という人件費の増加まで重なり、コスト増加、人手不足、利上げによる資金調達面での企業活動への影響など多くの課題を抱えており、今後の経済環境は極めて見通し難い状況にあるといえます。

このような経済状況の中、当金庫は取引先の資金繰りを支え、事業継続を徹底的に支援し、地域経済の回復に努めることを最重要課題とし、本部組織の強化として「お客様応援部」を新設して、取引先の経営課題解決支援に取り組んでまいりました。このほか、市場金利の上昇による有価証券関連収益の回復等により一定の最終利益を確保するなど、順調な業績を収めることができました。皆さま方のこの1年間のご支援、ご協力に厚く感謝申し上げます。

今年度は、第10次中期経営計画「未来を拓く変革への挑戦」の二年目として、「会員、お客さま、そして職員をはじめとする地域のすべての人の成長と幸せのために行動し、協同組織の金融機関として地域が抱える課題解決に貢献し、持続可能な地域社会を創る事を目指す」という基本理念のもと、役職員一同全力を尽くしてまいります。

皆さま方におかれましては、何卒、今後とも一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年7月

理事長 市川 博海



●コーポレートマーク



CONTENTS

ごあいさつ	1
当金庫の概要	2
役員	3
組織図	4
信用金庫のしくみについて	5
令和6年度の事業概況	7
中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組みの状況	9
内部統制システムについて	16
リスク管理体制	19
コンプライアンス態勢について	21
金融ADR制度等への対応	25
業務内容	27
店舗一覧	31
信金中央金庫のご案内	35
資料編	36

当金庫の概要

本店所在地／鹿児島市名山町1番23号	
創	立／大正11年10月1日
会	員 数／42,543先
出	資 金／41億24百万円
預	金／3,220億円
貸	出 金／2,196億円
店	舗 数／38ヶ店
常勤役職員数／354人	

(令和7年3月31日現在)



後列左から 増田常務理事、出口常務理事
前列左から 奥常務理事、市川理事長

役員

(令和7年6月17日現在)

■理事長	市川 博海	■常勤理事(融資部長)	西村 義久	■理 事	小正 芳史	■監 事	東 條 正博
■常務理事	奥 克幸	■常勤理事(本店営業部長)	加 治 屋 誠	■理 事	桃 木 野 聡	■監 事	梅 田 望
■常務理事	増 田 明	■常勤理事(総合企画部長)	有 田 貴紀	■理 事	岩 元 耕 兒	■監 事	萩 元 美 恵 野
■常務理事	出 口 浩	■理 事(相談役)	岩 男 秀彦	■常勤監事	米 森 幸一		

※理事 岩男 秀彦、小正 芳史、桃木野 聡、岩元 耕兒は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事です。
※監事 東條 正博、梅田 望は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事です。

経営理念

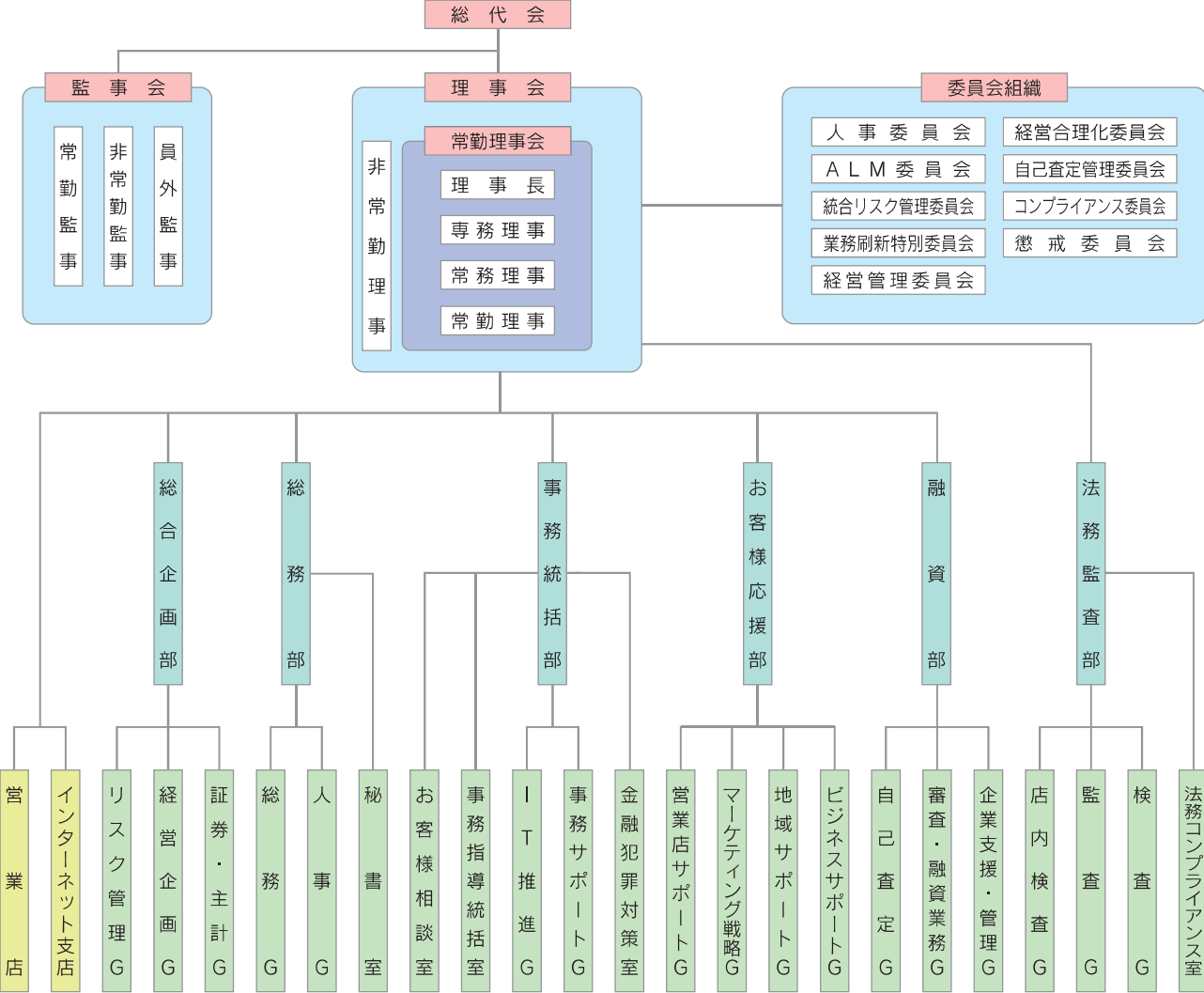
中小企業の健全な発展と地域社会の繁栄のため地域金融機関として密接な関係づくりに努めるとともに、経営活動を最大限に効率化し、いかなる環境変化にも耐え得る経営体質をつくりあげ、お客様の総合的パートナーとして、また地域文化の発展に役立つ金融機関として皆様とともに成長・発展を目指します。

基本方針

- 我々は地域経済の伸展に寄与する。
- 我々は自己の職責を誠実に果たす。
- 我々は中小企業者へ奉仕する。
- 我々はお互いの資質向上に努める。
- 我々は金庫の健全経営に協力する。

組織図

(令和7年6月26日現在)





【信用金庫のしくみについて】

※ 総代会制度について

① 総代会とはどういうものなのでしょう

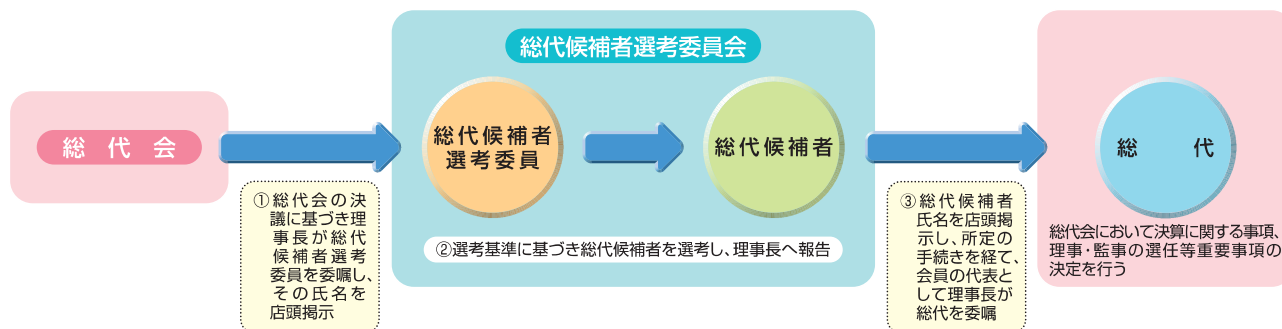
信用金庫は、会員同士の「相互扶助」の精神を基本理念に、会員1人1人の意見を最大の価値とする協同組織金融機関です。したがって、会員は出資口数に関係なく、1人1票の議決権を持ち、総会を通じて当金庫の経営に参加することとなります。しかし、当金庫では会員数が4万人以上と大変多く、会員の皆様全員が参加する総会の開催は事実上不可能です。そこで、当金庫では会員の総意を適正に反映し、充実した審議を確保するため、総会に代えて総代会制度を採用しております。

この総代会は、決算、計算書類の承認や、定款の変更、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関です。したがって、総代会は総会と同様に、会員1人1人の意見が当金庫の経営に反映されるよう、会員の中から適正な手続により選任された総代により運営されております。

なお、当金庫では、総代会の機能強化に向け自主的な取組みを一層推進してまいります。

さらに、総代会に限定することなく、日常の事業活動を通じて、総代や会員とのコミュニケーションを大切に、さまざまな経営改善にも積極的に取り組んでまいります。

総代会は、会員1人1人の意見を適正に反映するための開かれた制度です



② 総代とその選任方法(当金庫 定款24条～30条 及び 総代選任規程)

(1) 総代の任期・定数

- ・ 総代の任期は3年です。
- ・ 総代の定数は100人以上160人以内で、各選任区域の定数は、その区域の会員数に応じて定められています。

令和7年3月31日現在

選任区域	会 員 数			主 な 営 業 区 域
	法 人	個 人	合 計	
1区	1,824	8,090	9,914	本店営業部・高見馬場支店・伊敷支店・吉野支店・上町支店・岡之原支店
2区	2,064	8,353	10,417	武町支店・城西支店・鴨池支店・郡元支店・紫原支店・甲南支店・谷山支店・田上支店・脇田支店・南栄支店
3区	1,534	7,727	9,261	指宿支店・串木野支店・枕崎支店・湯之元支店・伊集院支店・加世田支店・出水支店・川内支店・阿久根支店・知覧支店
4区	1,948	11,003	12,951	加治木支店・鹿屋支店・国分支店・大口支店・栗野支店・隼人支店・牧園支店・宮之城支店・蒲生支店・始良支店・志布志支店
合計	7,370	35,173	42,543	

(2) 総代の選任方法

総代は、会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映する重要な役割を担っております。

そこで総代の選考は、次の3つの手続を経て選任されます。

- ① 会員の中から、総代会決議により総代候補者選考委員会を選任する。
- ② その総代候補者選考委員会が総代候補者を選考する。
- ③ その総代候補者を会員が信任する(異議があれば申し立てる)。

(3) 総代の選考基準

- ① 資格要件
 - ・ 当金庫の会員であること
- ② 適格要件
 - ・ 総代として相応しい見識を有している方
 - ・ 良識をもって正しい判断ができる方
 - ・ 人格にすぐれ、金庫の理念・使命を十分理解している方
 - ・ その他総代候補者選考委員会が適格と認めた方

第103期通常総代会

第103期通常総代会が、6月17日(火)「鹿児島サンロイヤルホテル」において開催されました。

総代総数152名中143名出席(うち57名委任状受理)のもと以下の議題が附議され、賛成多数で可決されましたことをご報告いたします。

【報 告】 業務報告、貸借対照表及び損益計算書の内容報告の件

【議案第1号】 剰余金処分案承認に関する件

【議案第2号】 会員除名に関する件

【議案第3号】 定款一部変更に関する件

【議案第4号】 理事並びに監事の任期満了に伴う選任の件



鹿児島信用金庫総代氏名

(令和7年6月17日現在 総代数152名 本誌掲載総代数152名)

記載の方々が当金庫の総代として、会員の方々を代表して当金庫の経営に参加されております。

※ここに記載してあります総代の方々には、個人情報の第三者への開示について事前に同意をいただいて、公表しております。

第1区				第2区				第3区				第4区																	
長 島 和 實⑬	福 留 実⑦	吉 留 康 貴④	松 尾 泰 博⑥	岸 本 博 人④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	前 原 くるみ⑥	小 永 吉 勝③	富 永 洋 三②	上 村 千 尋⑥	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
野 田 健 太⑫	富 永 博 司⑬	上 村 千 尋⑥	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
宮 原 敏 孝⑩	小 木 下 博 司⑬	上 村 千 尋⑥	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
堀 切 博 司⑨	有 村 信 一⑪	内 大 久 保 清 志⑥	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
川 島 英 和⑦	三 井 清 隆⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
田 畑 勇 六⑥	中 島 賢 二③	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
肥 田 木 康 正⑥	稲 留 純 臣②	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
上 拾 石 秀 一⑤	春 山 亮 一①	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
吉 富 秀 介⑤	濱 寄 一 安 伸⑪	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
橋 口 俊 博④	牧 小 坂 元 幸 一⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
小 福 田 博 四④	小 坂 元 幸 一⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
岩 男 直 哉④	小 坂 元 幸 一⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
吉 田 健 朗④	小 手 川 康 雄⑬	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
中 村 博 之③	新 福 誠 一④	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
萩 元 美 恵 野③	松 田 俊 也③	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
萩 原 敏 幸①	久 永 上 忠 哲⑬	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
松 山 健 二①	川 門 一 郎⑪	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
肥 後 修 一①	内 門 清 隆⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
六 反 田 真 一①	森 山 清 夫③	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
米 盛 庄 一①	荒 武 浩 明⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
諏 訪 園 匠①	山 之 内 浩 明⑤	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
鶴 留 田 博 一⑤	神 村 任 浩 二⑨	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
前 田 幸 一⑤	時 任 浩 二⑨	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
高 橋 悟 四④	永 田 功 博 行⑥	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
鳥 井 原 昭 人①	中 園 博 純④	末 花 吉 田 康 晴⑧	小 山 平 竜⑤	岩 男 直 哉④	青 木 英 一③	濱 邊 正 之①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	富 永 洋 三②	上 塘 裕 二①	留 盛 浩 一①	淵 重 田 功 祐⑫	西 重 田 功 祐⑫	窪 神 藤 今 内 中 田 中 佐 々 木 和 庭 口 前 宮 屋 中 條 田 池 山 山 黒 坂 駒	博 人④	勝 伸③	保 司①	治 博④	作 男⑧	美 美⑧	茂 美⑥	広 亨④	勝 典④	一 昭④	子 子①	嗣 輝①	清 彦③	史 代①	人 行③
津 曲 善 三⑧	高 山 村 元 保①	末 花																											



【令和6年度の事業概況】

1 事業方針

令和6年度は第10次中期経営計画「未来を拓く変革への挑戦」～信用金庫の真価の発揮と地域の持続的発展を目指して～の初年度であり、中期経営計画においては地域経済の発展のための原動力となるのは金庫職員一人一人の行動であり、職員の幸福度を向上させることが地域の人々を支え幸せにする原動力としており、職員・地域のすべての人の成長と幸せのために行動しながら伴走的サポートを徹底し地域が抱える課題解決に貢献する事で持続可能な地域社会づくりを目指しています。

日本銀行の利上げや物価上昇、人手不足と賃金上昇など地域経済を取り巻く環境が大きく変化していく中、企業活動への影響が懸念されることから取引先の資金繰りを支え事業継続を徹底的に支援し地域経済の回復に努めることを最重要課題とし本部組織の強化にも取組みました。新設した「お客様応援部」では営業店のサポートを行い課題解決営業の定着を図り、お客様の困りごとを見つけ出しともに解決していくため、ひとりでも多くのお客様のもとを訪問し、寄り添った営業活動を行い経営課題の解決支援に取り組んでまいりました。

2 金融経済環境

海外の金融経済環境においては米国経済の底堅さから世界的に株価は高値圏で推移しておりましたが、第二次トランプ政権誕生後、各種政策が与える影響によるインフレの再燃、景気減速懸念による不透明感の高まりから市場は乱高下する場面が多くなり、世界経済に大きな影響を及ぼすとみられる米国の政策に注目が集まっています。

国内においては令和6年3月に日本銀行がマイナス金利解除により17年振りに政策金利を引き上げ、その後も追加利上げを実施しており国内の金融環境は金利のある世界へと大きく変わってきました。また、日経平均株価も34年振りに4万円超えを記録、賃上げ率も33年振りに5%を達成するなどデフレ脱却に向けて大きな転換点を迎えた年でありました。順調な企業業績、賃金の上昇、物価上昇という景気的好循環が想定通り進むことが期待されていますが、地域経済においては原材料高騰による価格転嫁が思うように進まない中、賃金上昇という人件費の増加まで重なり、コスト増加、人手不足、利上げによる資金調達面での企業活動への影響など多くの課題を抱えています。そのような中、米国の政策が国内経済に与える影響は不確実性が高まっており、今後の経済環境は更に見通し難い状況にあるといえます。

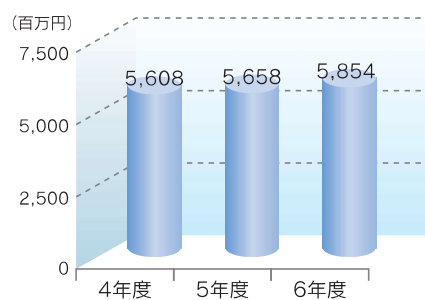
3 業績

令和6年度の預金積金及び貸出金の当期末の残高について、預金は金融環境の変化により投資や高利回り商品を選好する動きの活発化や相続預金の流出などにより定期性預金が大幅に減少したことで預金残高は前期に比べ47億44百万円減少し3,220億29百万円となりました。貸出金については伴走支援型保証制度の取扱いが令和6年6月末で終了したこともあり伸び悩んでおり、前期に比べ11億89百万円減少し2,196億85百万円となりました。収益面では、日本銀行の利上げに伴い預金・貸出金利を上げたことにより預金利息は前年に比べ1億52百万円増加。貸出金利息は貸出金利回りが上昇したものの残高の減少により前年に比べ11百万円減少しました。有価証券関連収益についても市場金利の上昇により収益性は回復しており、預け金の運用も強化したことで対前期増加し、経常収益は対前期比1億96百万円増加し58億54百万円となりました。費用面では初任給引き上げや各種手当の見直しなどにより人件費は増加。物件費については継続的な削減への取組みにより物価上昇局面においても費用増加は最低限に抑えられています。また、国内外の要因により今後の経済環境が見通し難い状況にある中、徹底した「伴走的サポート」により事業再生に向けた出口戦略としての計画的な償却・引当を実施した結果、経常費用が対前期比2億31百万円増加しました。この結果、経常利益は対前期比35百万円減少の2億11百万円、当期純利益は1億45百万円減少の1億8百万円となり、令和6年度決算は「増収・減益」となりました。なお、不良債権比率は2.26%となりました。

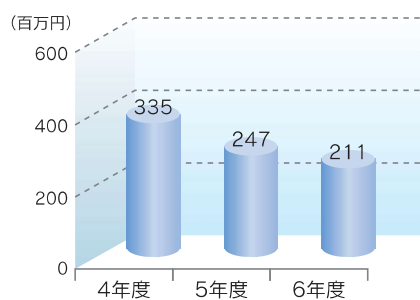
4 事業の展望及び当庫が対処すべき課題

令和7年度は第10次中期経営計画「未来を拓く変革への挑戦」～信用金庫の真価の発揮と地域の持続的発展を目指して～の2年目となります。「会員、お客さま、そして職員をはじめとする地域のすべての人の成長と幸せのために行動し、協同組織の金融機関として地域が抱える課題解決に貢献し、持続可能な地域社会を創る事を目指す」という基本理念のもと、昨年度に取組んだ各種施策を定着させ「かしん」の存在価値を高め地域に必要とされる金融機関となるため、昨期の方針を進化させた事業計画を策定しております。なお、引き続き「不祥事件根絶に向けたコンプライアンス態勢強化とリスク管理態勢の強化」を基本方針の中でも重要課題と位置付け、役職員のコンプライアンス意識の更なる醸成を図るため抜本的な改善策を着実に実行してまいります。

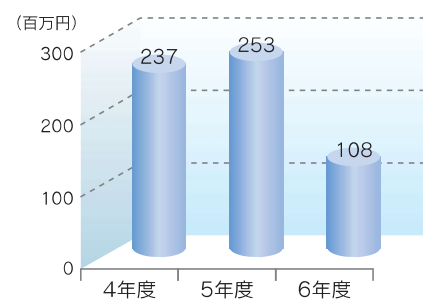
【経常収益】



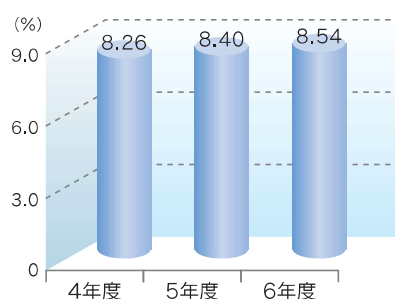
【経常利益】



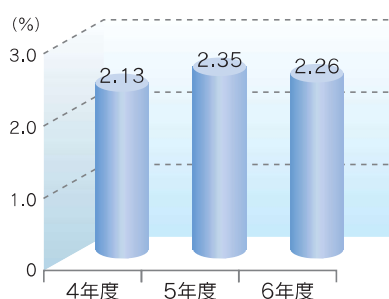
【当期純利益】



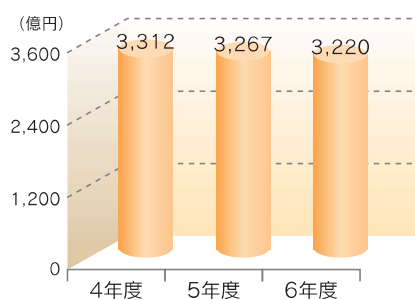
【自己資本比率】



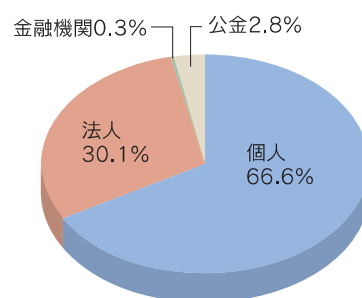
【不良債権比率】



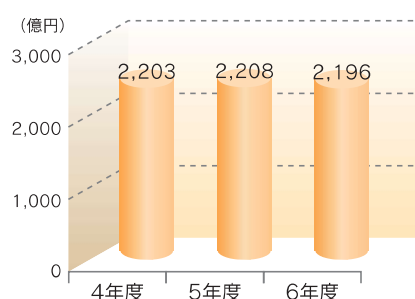
【預金積金残高】



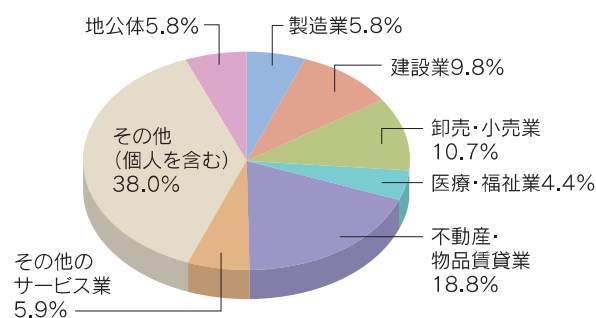
【預金残高全体に占める預金者別割合】



【貸出金残高】



【貸出金残高の業種別比率】





【中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況】

※ かしんの杜

「つなぐ力の発揮」 かしんの地域貢献活動

地域の活性化を図るため、鹿児島信用金庫の地域貢献として「かしんの杜」（かしん総合人材育成構想）活動を行っております。

かしんの杜

① 経営の杜

- ① かしん経営大学
- ② かしんビジネスチャレンジプラザ
- ③ かしんトップマネージメント大学
- ④ かしん経営者フォーラム
- ⑤ かしん経営相談室
- ⑥ かしん企業サポート相談室
- ⑦ かしんへGO!!（無料出張相談会）
- ⑧ かしんへGO!!ビジネスコンテスト

② ITの杜

- ① IT化推進に向けた研修・相談会の実施
- ② IT・AI・ロボット等の導入支援
- ③ セキュリティ対策の支援

③ 教育の杜

- ① かしんアイホールセミナー
- ② かしん子ども信用金庫教室
- ③ かしん自然ふれあい教室
- ④ 硬筆コンクール協賛

④ 音楽の杜

- ① かしんチャリティー演奏会
- ② 南日本音楽コンクール協賛
- ③ 各種ミニコンサート

⑤ スポーツの杜

- ① かしんカップ少年サッカー大会
- ② かしん旗少年剣道大会
- ③ 鹿児島信用金庫旗争奪
全日本少年軟式野球大会・鹿児島県予選大会
- ④ かしん旗争奪少年ソフトボール大会
- ⑤ かしん旗争奪鹿児島県学童軟式野球大会

⑥ 緑の杜

- ① 植樹による「かしんの森」活動
- ② 各種エコ活動

⑦ 地域の杜

- ① 各地域での清掃活動
- ② 献血活動

経営の杜

1 かしん経営大学

経営戦略や企業発展を目指すための勉強を目的として、平成8年に「かしん経営大学」を開校しました。

次世代を担う経営者としての資質の向上と、真のリーダーシップを学び企業経営に役立て、さらに鹿児島の経済に寄与できる人材の育成を目指しています。



2 かしんビジネスチャレンジプラザ

「かしん経営大学」卒業生のフォローアップと県内中小零細企業活性化のための経営者育成並びに創業を支援し、多彩なビジネスを創造することで地域産業の成長に貢献することを目指しています。



かしんチャレンジマーケットinAMU広場・センテラススクエア

鹿児島中央駅AMU広場および天文館センテラススクエアにおいて、当金庫の顧客・経営大学の卒業生等を対象に、顧客との対面販売を通じた商品のPR販売や、従業員の「売る気と売る技術」を磨くとともに、顧客の反応を肌で感じる場の提供を平成24年より実施しております。

かしんチャレンジマーケットin おおすみ

鹿屋支店イベント広場において、キッチンカーによる飲食ブースやマルシェの出店を行い、また、ギャラリーにおいては大隅地域の食やモノの特産品などの展示を行い、地元の観光資源のPRにも役立つよう努めております。

かしんチャレンジマーケット「能登半島復興支援フェア」

被災地支援を目的に、能登地方の生産加工品をのり共栄信用金庫・興能信用金庫の職員とともに販売し、かしん青年クラブ(KYC会)によるチャリティバザーにて収益金全額寄付や、来場者に復興支援協力をいただきました。

3 かしんトップマネージメント大学

お取引先法人企業経営者の人材育成および企業の業績を向上させるとともに、地域経済の浮揚を図ることを目的として、「かしんトップマネージメント大学」を平成22年に開校しました。

トップマネージメント大学では、法人企業の経営者および後継者、役員、部課長などの経営幹部を対象とし、税理士や中小企業診断士等の講師が、主に経営戦略・経営課題・財務分析を専門的に、またわかりやすく講義しています。



4 かしん経営者フォーラム

参加企業の成長・発展と人材育成を目的として、大いなる事業繁栄と地域の活性化を目指し、平成25年7月に「かしん経営者フォーラム」を開校いたしました。県内企業の若手経営者、経営幹部、後継者の方々を対象に、各界講師による経済・経営・財務・マーケティング・人事・労務などの様々な経営に関する勉強を行っています。

5 かしん経営相談室

地域創生・活性化の支援と取引先の経営力強化のため、外部専門機関等と連携し、「かしん経営相談室」を無料で開設しております。経営についてお悩みの方は、ぜひご相談ください。

- 日時：随時
- 会場：お取引営業店（申込事業所事務所等でも可）
- 対象：当金庫取引先の法人企業経営者、個人事業者及び創業予定者
- 相談：予約制とし、事前に経営相談申込書を頂いたうえでご相談に応じます。（1回の相談時間：原則2時間）

内 容

- ①経営全般の相談
- ②創業・新事業相談
- ③相続・事業承継相談
- ④税務相談
- ⑤その他

相談員

さくら経営支援株式会社
税理士法人
さくら優和パートナーズ

6 かしん企業サポート相談室

お取引のある法人経営者及び個人事業主が、事業承継、相続、贈与、M&A等の専門性の高い課題について、弁護士法人照国総合事務所の弁護士、税理士等へ直接相談できるもので、取引先の経営課題解決を図ることで当金庫と強固な関係を構築することを目的としています。

- 日時：随時
- 会場：お取引営業店、照国総合事務所
- 対象：当金庫取引先の法人企業経営者、個人事業者及び創業予定者
- 相談：予約制とし、事前に経営相談申込書を頂いたうえでご相談に応じます。（1回の相談時間：原則2時間）

内 容

- ①事業承継・M&A相談
- ②税務相談
- ③経営全般の相談
- ④創業・新事業相談
- ⑤その他

相談員

弁護士法人
照国総合事務所



7 かしんへGO!! (無料出張相談会)

金庫のお客さまが、日常の仕事に追われ、経営相談に行きたくとも時間の都合や場所が遠く、行くきっかけを掴めないままになっている方のために、お近くの営業店で相談を受けられることを目的として開催しております。

- 日時：開催の2ヶ月程前にお知らせします。
- 会場：お取引先営業店
- 対象：当金庫取引先の法人企業経営者、個人事業者
- 相談：予約制とし、ご都合の良い時間に調整可能（1回の相談時間：原則1時間）

内 容

- ①売上拡大
- ②広報・集客
- ③創業
- ④補助金・経営改善
- ⑤業務効率化
- ⑥労務・税務・法務
- ⑦事業承継
- ⑧その他

相談員

公益財団法人
かごしま産業支援センター
鹿児島県よろず支援拠点
コーディネーター

8 かしんへGO!!ビジネスコンテスト

創業、第2創業等を目指している方や夢をお持ちの方を対象に、創業、第2創業等のために必要な事前準備から創業後まで伴走的な支援を行うことで、創業者と新たな雇用を創出し、地域の活性化を図ることを目的に開催しております。

- 応募期間：5月1日～7月31日
- 会場：かしんアイホールビル6F（最終プレゼン）
- 応募要件：鹿児島県内において、概ね1年以内に創業を予定している方
または、創業後の場合は1年以内に創業していること
- 対象地域：鹿児島県の当金庫営業エリア内

共 催

公益財団法人
かごしま産業支援センター
鹿児島県よろず支援拠点

協 賛

株式会社日本政策金融公庫、鹿児島県信用保証協会、学校法人津曲学園鹿児島国際大学、株式会社南日本新聞社、公益財団法人日本中小企業福祉事業団（日本フルハップ）、信金中央金庫



商談会への出展支援 ～ビジネスマッチング支援～

本県食品関連産業の振興を図るため、県内生産者・食品加工業者の方々を対象に、首都圏や県内外に向けて食品を紹介し、県内7金融機関で構成する「鹿児島県アグリ＆フード金融協議会」の一員として市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会を開催し、ビジネスマッチング支援を行っております。

主な商談会・事業

- 食の大商談会インフォメーションバザール（東京都）
- うんまか鹿児島輸出商談会（鹿児島県）
- よい仕事おこしフェア（東京都）
- 「しんきん地域ネット（営業代行）」
- 「しんきんコネクト」事業





※ かしんの杜

教育の杜

1 かしんアイホールセミナー

皆様の暮らしに役立てていただくことを目的として、年金・医療分野など国内情勢に応じた身近なテーマで、平成23年から「かしんアイホールセミナー」を開催しております。これからも、多くの方が興味をもたれる分野をテーマにアイホールセミナーを開催します。

最近のアイホールセミナー開催内容

- ◎中小企業の皆様に役立つ価格交渉講習会
講師:TAC専任講師、中小企業診断士 若葉 麻樹 氏
- ◎電子帳簿保存法とインボイス
講師:鹿児島県よろず支援拠点 コーディネーター 長友 翔 氏
- ◎社会人のためのマナーセミナー 講師:中村 朋美 氏 フリーアナウンサー
- ◎25歳でがんになった僕～若年世代(AYA世代)のがんと就労・お金の現実～
講師:NPO法人 がんノート 代表理事 岸田 徹 氏
- ◎認知症予防セミナー 講師:KUMON学習療法センター



2 かしん「こども信用金庫」教室

金融教育を通じて金銭感覚を育てるとともに、当金庫を身近に感じてもらうことを目的として、平成23年から「かしん「こども信用金庫」教室」を開催しております。

セミナーでは、ものやお金の価値、お小遣い帳の上手な使い方、キャッシュレスなどについて、体験学習では、お札の数え方や端末を利用した入金業務、本物の1億円の重さの体感、支店内の見学などで金融の仕事を学びます。

参加された小学生からは、夏休みの自由研究にできるとの喜びの声もいただいております。



3 硬筆コンクール協賛

KKB硬筆コンクールは、文字を正しく、整えて、丁寧に書くことを大切にする心を育み、文字文化の振興と発展に寄与することを目的としており、当金庫も「教育の杜」事業として協力しています。

県内外の学校や書道教室等から、出展者の日々の研鑽と指導者の熱意が強く感じられるたくさんの作品の応募があり、鹿児島信用金庫賞の授与も行っております。



4 かしん自然ふれあい教室

自然との触れ合いや自然体験を通じて、子供たちの健全な育成と親子の絆をより一層深めていただくことを目的に、平成30年度から「かしん自然ふれあい教室」を開催しています。

これまでに、「山」シリーズとして枕崎のNPO法人「自然花」で実施。フィールドアスレチック体験や野菜収穫等の農業体験、生地からピザをつくる食育体験、山登りなどで自然を思いっきり楽しみました。

また、「海」シリーズでは重富海岸にある「自然ふれあい館なぎさミュージアム」で実施。雄大な桜島を背に、潮が引いた後の広い干潟で貝や小魚、ゴカイなど様々な生き物の採取や分類をし、また漂着物や貝殻、松葉などを利用して自分だけのフォトフレームづくりを楽しみました。参加された親子は海の自然を満喫していました。



5 南日本小学生プログラミング大会協賛

令和6年12月、「全国選抜小学生プログラミング大会」の鹿児島県予選を兼ねて開催され、県内から予選を勝ち抜いた10組が発表しました。

当金庫はゴールド協賛企業としてこの大会に協力し、鹿児島の次代を担う小学生のプログラミング分野の発展と活躍を応援しています。



ITの杜

金庫のお客さまが、ITを活用した経営革新を進めることで企業業績を伸ばし、ひいては雇用の確保や地域経済の活性化に貢献することを旨として、令和元年12月に「ITの杜」を創設しました。

また、令和2年11月に業務連携協定式を行い、当金庫が「IT化」推進に関して業務連携している団体・企業とともに、お客さまの経営効率化や人手不足解消、売上拡大を全面的にサポートする体制の構築を目指して活動しております。

当金庫がお客さまのIT化を推進するために
業務連携協定を締結した団体・企業

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 九州本部
公益財団法人 かごしま産業支援センター
リコージャパン 株式会社 鹿児島支社
株式会社 南日本情報処理センター
株式会社 フォーエバー
トータル・ソフトウェア 株式会社
一般社団法人 鹿児島情報サービス産業協会
信金中央金庫

活動内容

- (1) ITに関するセミナーや講演の実施
- (2) ITに関する経営簡易診断
- (3) ITコーディネーターなどの専門家
による派遣の指導全般
- (4) 企業のIT化実現に向けた企画・提案
- (5) ソフトウェアや通信機器等の提供
およびIT導入補助金の活用



音楽の杜

1 かしんチャリティー演奏会

社会貢献活動の一環としてチャリティー演奏会を開催しています。ステージは、昭和10年創部の「当金庫 吹奏楽部」と地元で活躍されている音楽家の方々と楽しいコンサートです。

また、皆さまから寄せられました慈善会員券の売上代金と寄付金の浄財は、全額社会福祉事業等へ寄付しております。皆さまの善意に深く感謝申し上げます。



これまでの吹奏楽部の出演行事(抜粋)	主催(場所)
みどりの感謝祭「森のステージ」	鹿児島県・かごしまみどりの基金・鹿児島県森林整備公社(始良市・県民の森)
オロシティー夏まつり	鹿児島総合卸商業団地協同組合(鹿児島市)
国分夏祭り	霧島商工会議所(霧島市)
吹奏楽コンクール	鹿児島県吹奏楽連盟 他(鹿児島市)
チャリティー演奏会	当金庫(鹿児島市)
おはら祭	おはら祭振興会(鹿児島市)
吹奏楽フェスティバル	鹿児島県吹奏楽連盟(鹿児島市)
知覧地区音楽祭	知覧地区文化委員会(南九州市)
南さつま海道 鑑真の道歩き	南さつま海道鑑真の道歩き実行委員会(南さつま市)

2 南日本音楽コンクール協賛

南日本音楽コンクールの歴史は半世紀以上におよび、ピアノ、弦楽、木管、金管、打楽器、声楽、作曲の7部門に対して、参加者は小学生から大学生・一般と幅広く、県内の若手音楽家の登竜門として大きな期待を担っています。当金庫は、鹿児島の音楽文化発展のため、本コンクールに特別協賛するとともに、鹿児島信用金庫賞の授与も行っています。



※ かしの杜

スポーツの杜

1 かしんカップ少年サッカー大会

サッカーを通じて各チームの相互の親睦と少年の健全育成をはかり、あわせてサッカーの普及ならびに技術の向上を目的として、平成18年度から「かしんカップ少年サッカー大会」を開催しております。

毎回、60チームを超える約1,000名の小学生が参加し、熱戦が繰り広げられます。また、「エコキャップ運動」を実施し、ペットボトルキャップが参加者の協力で集められ、世界の子供たちへ感染症のワクチン代として寄付するための支援活動も行っています。



2 かしん旗少年剣道大会

剣道を修行する青少年の気力・体力・技術の向上を図り、相互の親睦を深め、将来の郷土を担う青少年の健全育成を目的に平成24年から「かしん旗少年剣道大会」を開催しております。

毎回、60チームを超える約400名の少年剣士が集い、機敏な剣さばきで元気いっぱいの試合を行っております。また、回を重ねるごとに、大会規模も拡大され「かしん旗」という冠杯として県下一円に浸透しつつあります。



3 鹿児島信用金庫旗争奪全日本少年軟式野球大会協賛

全日本少年野球大会は、中学生を対象とした軟式野球大会となっており、県内の予選を勝ち抜いたチームは九州大会、そして全国大会へと挑戦することとなり「中学生の甲子園」とされ、中学生憧れの大会となっています。当金庫は優勝旗やメダルの提供を行い鹿児島県予選大会に協賛し「鹿児島信用金庫旗争奪全日本少年軟式野球大会」として開催されています。



4 いぶすき菜の花マラソン協賛

いぶすき菜の花マラソンは、全国で開催されるマラソン大会の中でその年の最初に開催される公認のマラソン大会であり、また、コース沿道では市民によるランナーへの心温まるおもてなしでも全国的に注目を集め、人気のあるマラソン大会となっております。当金庫は本大会に協賛し、市民ボランティアの一員としてイベント等の協力を行っております。

5 かしん旗争奪少年ソフトボール大会

将来の郷土を担う青少年の健全育成と選手および育成指導者の親睦を深めることを目的に、平成30年12月に「第1回かしん旗争奪少年ソフトボール大会」を開催しました。県内各地より32チーム、総勢600名を超える小学生が鹿児島市郡山総合運動場で熱戦を繰り広げました。令和6年度も鹿屋の女子ソフトボールチームの「MORI ALL WAVE KANOYA(モリ・オール・ウェーブ・カノヤ)」を招き少年たちと交流をしました。

今後、本大会が県下一円に浸透し、小学生の目標となる大会となることを期待して、地域スポーツの発展と青少年の健全育成に貢献していきます。



6 かしん旗争奪鹿児島県学童軟式野球大会協賛

令和元年11月より枕崎市で毎年、かしん旗争奪鹿児島県学童軟式野球大会を開催しております。

将来のプロ野球選手を夢見る県内16チーム約300名の学童が、毎回、元気いっぱいのプレーで優勝旗を目指して白熱した試合を展開しております。今後も中学生大会と共に野球をとおして、青少年の健全育成の一助となるように、また参加された選手のお互いの友情がさらに深まり思い出に残る大会となるよう協賛していきます。



緑の杜

当金庫では「みどり豊かな郷土」を次世代に引き継いでいくために、森林づくりや、環境緑化に取り組んでいます。「緑の杜」事業の一環として、「公益財団法人かごしまみどりの基金」へ毎年寄付を行い、鹿児島県の森林整備に役立てていただいております。また、毎回春に開催される「みどりの感謝祭」において、森林整備に取り組んでいる企業として同基金より感謝状をいただき、職員と家族による森林づくり活動も行っています。



お取引先とのつながりについて

かしんハッピー会

当金庫では、早くからお取引先との組織作りに力を入れております。

昭和38年11月、鹿児島信用金庫本店新築前に若手経営者の有志22名が将来の鹿児島の中核を目指し、また、当金庫の強力な推進母体となるべく、お互いの研鑽努力を誓いあつて「かしんハッピー会」をスタートしました。その後、会員数も増加し、「会員の資質向上を図る場」「異業種交流の場」「会員相互間の親睦と連携を深める場」として全営業店単位で組織化、令和5年11月には設立60周年を迎え、現在は約1,400名の会員で活動を行っております。また、講演会では毎回600名を超える参加者のもと、各界の著名な講師陣による講演会を開催しており、皆さまから好評をいただいております。



【これまでの講師陣】(肩書は当時)

- 将棋棋士・投資家／桐谷広人 氏
- 元民放解説委員長・海洋冒険家／辛坊治郎 氏
- プロゴルファー・作家／坂田信弘 氏
- 吉野家ホールディングス会長／安部修仁 氏
- 政治ジャーナリスト／後藤謙次 氏
- シンクタンク・ソフィアバンク代表／藤沢久美 氏
- 俳優／榎本孝明 氏
- 奄美パーク園長／宮崎緑 氏
- 野球解説者・スポーツコメンテーター／広澤克実 氏
- 志学館大学教授・鹿児島県立図書館館長／原口泉 氏

目的

- ・会員の資質向上・福祉の増進及び会員相互の親睦と友愛強調を図り、事業の健全経営を図る。
- ・金庫の事業進展に積極的に協力する。

活動内容

- ・各界講師・金庫役員等による講演会
- ・会員相互並びに金庫との情報交換や懇談会
- ・経営幹部のための諸研修会の開催
- ・ビジネスマッチング
- ・ゴルフコンペやその他の親睦会 など

KYC(鹿児島信用金庫青年クラブ)

次世代を担う若手経営者が、これから学びかつ進むべき道をお互いの連携の中で求め、鹿児島に寄与することをスローガンとして昭和49年に発足した異業種交流会であり、原則として50歳未満の会員をもって構成されています。

主な活動内容としては、月例会、ボランティア活動、講演会、視察旅行、チャリティバザー等で会員自身による自主的な計画のもとで活動しています。

令和6年1月に50年の節目を迎えました。



かしんレディース会

働く場面での活躍を希望する全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる女性活躍社会の実現を応援するため、異業種交流によるキャリアアップとより輝きのある女性を目指すことを目的として、「かしんレディース会」を発会しました。

本会は、女性経営者をはじめとした多くの社会人女性の方々と構成されており、キャリアアップの為にセミナーや講演会等の様々な事業を実施しております。

